

# 2022年度 事業報告書

2022年4月1日から

2023年3月31日まで

公益社団法人自動車技術会

# 目 次

|      |                                  |    |
|------|----------------------------------|----|
| ◆    | ごあいさつ                            | 1  |
| 事業報告 |                                  |    |
| 1    | 総 会                              | 2  |
| 2    | 役員会                              | 2  |
| 3    | 会 員                              | 2  |
| 4    | 調査及び研究（定款第5条1号）                  | 3  |
| 5    | 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第5条2号）        | 4  |
| 6    | 学術誌及び学術図書の刊行（定款第5条3号）            | 5  |
| 7    | 人材の育成（定款第5条4号）                   | 7  |
| 8    | 規格の作成及び普及（定款第5条5号）               | 10 |
| 9    | 内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款第5条6号）     | 12 |
| 10   | 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条7号）          | 14 |
| 11   | その他この法人の目的を達成するために必要な事業（定款第5条8号） | 14 |
|      | 参考：事業区分の説明                       | 16 |

# ごあいさつ

公益社団法人自動車技術会

会長 大津 啓司

2020年より猛威を奮っていた新型コロナウイルス感染症は、未だ収まっているとは言えない状況ではありますが、昨年5月の会長就任以来、自動車技術会としては、感染予防対策を徹底し、オンラインとの併催も取り入れながら、多くのイベント・会議の現地開催を再開させて参りました。

本会が実地での事業展開を無事、再開することができましたのは、会員、並びに関係者の皆様のご支援とご協力によるものと心よりお礼申し上げます。

2022年度の主な活動を振り返りますと、季節の移り変わりと共にほぼ毎月にもわたり企画した本会主催のイベントに、多くの皆様にご参加・聴講頂くことができました。5月には、人とくるまのテクノロジー展の横浜展示会と春季大会、6月には自動運転AIチャレンジ、インテグレーション大会決勝、そして、名古屋での人テク展、7月にはキッズエンジニア、9月には学生フォーミュラ日本大会動的審査も無事、完遂することができました。10月の秋季大会に加えて、11月にはくるまからモビリティへの技術展を開催するなど、積極的な活動を行う事ができました。また、我々、自動車技術会の会員数は45,028人、賛助会員数は過去最高の712社となり、現役のエンジニアだけでなく、更に将来を担う子供たち、学生の皆さんの「喜び」の場を提供しておりますことを光栄に思います。

持続発展可能な事業運営体制として、オンライン等新たな運営方法を構築する大切さを認識する一方で、現地開催による交流の「場」の提供という、本会の使命の重要性を改めて実感致しました。

その中で、つながりを持つ「場」としての新しい試みとして若手技術者の入会を促進するため、4月から10月にかけて28歳以下を対象とした新入会無料キャンペーンを実施しました。各支部における積極的なキャンペーン展開により、多くの方に入会いただいております。

この結果、2022年度末で昨年度同月比の会員数より若干名ではありますが増加しており、4年連続で減少していた会員数によりやく歯止めがかかりました。

改めまして、本会が「国民生活の向上に寄与するために」という原点を忘れず、CASE、MaaS、グリーン成長戦略をはじめとする新たな技術領域テーマに取り組む上での講演会や情報交流の場の提供などを通じ、人が学び/育ち/つながりを持つ「場」とたらしめるべく取り組んで参ります。

引き続き、会員並びに関係者の皆様より、一層のご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。

以上

# 1 総 会

2022年5月26日に、第12回定時総会を開催した。

新型コロナウイルスの影響及び、感染拡大防止のため、今回の総会は代議員による事前の書面又は電磁的方法による議決権の行使と、会場に参加している代議員の議決権の行使に基づき議案の決議を行った。寺師会長（2020-2021年度）の議長により、次の議案が審議され、いずれも異議なく可決された。

書面またはインターネットによる議決権の総数：182個

会場での議決権行使数：10個

議案：

第1号議案：2021年度決算報告の件

第2号議案：2022-2023年度理事選任の件

第3号議案：2022-2023年度監事選任の件

第4号議案：名誉会員推薦の件

第5号議案：役員報酬金額承認の件

報告事項

(1) 2021年度事業報告の件

(2) 2022年度事業計画の件

(3) 2022年度予算の件

# 2 役員会

理事会5回、担当理事会4回、及び支部担当理事会2回を開催した。

# 3 会 員

2022年度中の個人会員の入会者数は3,533名、退会者数は3,305名で、2023年3月31日現在の個人会員数は、前年度に対し228名増の45,028名となった。賛助会員の入会数53社、退会数は26社で、2023年3月31日現在の会員数は前年度比27社増の712社となった。

会員資格別会員数の推移（毎年度末現在）

|        | 名誉会員 | 正会員    | 学生会員  | 合 計    | 賛助会員 |
|--------|------|--------|-------|--------|------|
| 2018年度 | 50   | 46,887 | 2,010 | 48,948 | 669  |
| 2019年度 | 49   | 46,882 | 1,914 | 48,846 | 695  |
| 2020年度 | 50   | 44,611 | 1,306 | 45,966 | 677  |
| 2021年度 | 50   | 43,432 | 1,318 | 44,800 | 685  |
| 2022年度 | 48   | 43,323 | 1,657 | 45,028 | 712  |

## 支部別会員数の推移（毎年度末現在）

|        | 北海道支部 | 東北支部 | 関東支部   | 中部支部   | 関西支部  | 九州支部 | 海外  | 合計     |
|--------|-------|------|--------|--------|-------|------|-----|--------|
| 2018年度 | 215   | 527  | 18,483 | 22,153 | 6,390 | 930  | 250 | 48,948 |
| 2019年度 | 212   | 530  | 18,421 | 22,243 | 6,311 | 882  | 247 | 48,846 |
| 2020年度 | 190   | 400  | 17,408 | 21,037 | 5,897 | 832  | 202 | 45,966 |
| 2021年度 | 194   | 397  | 16,900 | 20,685 | 5,654 | 784  | 186 | 44,800 |
| 2022年度 | 246   | 456  | 17,123 | 20,300 | 5,859 | 857  | 187 | 45,028 |

## 4 調査及び研究（定款第5条1号、公益目的事業1）

自動車及び自動車関連技術の調査・研究・交流活動を目的とする48部門委員会の活動を推進した。

新連携創生センター（旧共同研究センター）では、産学連携事業、他学協会との連携事項、受託研究事業などを目的とする4委員会が活動を推進した。

部門委員会と新連携創生センター傘下の各委員会の企画により、2022年春季大会においては72件のオーガナイズドセッション（OS）を企画し、82セッション360編の学術講演会をパシフィコ横浜にて実地とオンラインのハイブリッドで開催した。フォーラムについては、7月に20プログラムをオンラインにて開催し、技術交流の促進に貢献した。

国際会議関係では、9月に「AVEC2022」をハイブリッド開催で準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もありオンラインでの開催となった。10月には「SETC2022」をアクリエひめじにてハイブリッド開催した。

### 技術会議

|              |  |
|--------------|--|
| 技術会議         | 技術会議組織の適正な運営、ならびに技術の向上を目指す交流活動の企画、推進、調整のための論議を行った。3回開催   |
| 運営検討委員会      | 技術担当理事により、技術会議組織の適正な運営のための種々の課題に関する論議を行った。3回開催   |
| イノベーション創出委員会 | 今年度開催無し  |
| 合同会議         | 2022年8月25日オンライン開催、192名出席、基調講演2件、事務局から2022年度事業報告と2023年度事業計画策定を依頼、技術部門貢献賞および学術講演会運営功績感謝状の表彰もオンラインにて開催      |
| 分野連絡会        | 今年度開催無し  |
| 部門委員会        | 48部門委員会で活動、委員会延べ開催数268回、話題提供数433件  |
| 学術講演会運営委員会   | 春季・秋季大会の学術講演会のセッション編成、優秀講演発表賞受賞者の選定、等を行った  |
| 国際会議         | 以下の国際会議を準備、開催した。<br>・AVEC2022（2022/9/12～15、神奈川工科大学）オンライン開催<br>・SETC2022（2022/10/31～11/3、アクリエひめじ）ハイブリッド開催 |
| OS・フォーラム     | OS：2022年春季大会にて72件を企画・実施した。（セッション全体82件）<br>フォーラム：7月11～14日、オンラインにて14件開催（全体20件）                             |
| シンポジウム・講習会   | シンポジウム：8件開催、講習会：1件開催<br>シンポジウム・講習会合わせて総動員数1,265名   |
| 公開委員会        | 14件を企画・実施  |
| 研究調査事業       | 拋出型1委員会が2テーマで実施  |
| 受託・請負事業      | 大気環境技術・評価部門委員会<br>受託先：日本自動車工業会   |

|                                  |   |  |
|----------------------------------|---|--|
|                                  | 車外騒音部門委員会<br>受託先：環境省                                    |  |
|                                  | 振動騒音部門委員会   | 第12回技術者育成プログラム（主に学生対象）   |
| その他活動                            | 流体技術部門委員会<br>デザイン部門委員会                                  | 第7回技術者育成プログラム（主に学生対象）<br>第10回二輪デザイン公開講座<br>第11回中高生対象モビリティデザインコンテスト（旧カーデザインコンテスト） |
|                                  | 材料部門委員会   | 日本鉄鋼協会と「自動車用材料共同研究調査会」で連携  |
|                                  | 構造形成技術部門委員会   | 新構造材料技術研究組合（ISMA）と「マルチマテリアル構造設計技術調査委員会」で連携                                       |
|                                  | 自動車制御モデル部門委員会   | 計測自動車制御学会と連携   |
| <b>新連携創生センター<br/>（旧共同研究センター）</b> |   |  |
| 運営委員会                            | 新連携創生センターセンターの運営他について議論した。2回オンライン開催                     |  |
| 委員会活動                            | 4委員会にて調査研究活動を推進、委員会延べ開催数21回、話題提供者数7件                    |  |
| OS・フォーラム                         | OS：2022年春季大会にて1件企画<br>フォーラム：7月11～14日、オンラインにて3件開催（全体20件） |  |

OS：Organized Session

AVEC：International Symposium on Advanced Vehicle Control

SETC：Small Powertrains and Energy Systems Technology Conference

## 5 研究発表会及び学術講演会等の開催

（定款第5条2号、公益目的事業2・3・自動車技術展は収益事業）

新型コロナウイルス感染の影響もあり、5月の春季大会はパシフィコ横浜にて初のハイブリッド開催とし成功裡に終了した。フォーラムは昨年度同様7月に20件をオンライン開催した。10月の秋季大会は大阪国際会議場にて春季大会に続きハイブリッド開催となった。春季大会の学術講演会では4,826名が参加し、各参加者はハイブリッド開催したメリットを享受し、以前よりも多くの講演を聴講した。自動車技術展：人とくるまのテクノロジー展は、横浜・名古屋で開催すると共に、それぞれでオンライン展示会を併催した。また、将来のモビリティに必要な技術領域に焦点を充てた“くるまからモビリティへ”の技術展2022 ONLINEを11月に開催した。

### 春季大会 <2022年5月25日（水）～27日（金）パシフィコ横浜+オンライン>

|                    |   |
|--------------------|---|
| 学術講演会              | 82セッション、講演数360件（内、英語講演63件）<br>参加登録者数4,826名      |
| Keynote Address、   | 参加登録者数466名                                      |
| 第3回学生ポスター<br>セッション | ハイブリッド開催、39件の発表、スポンサー9社<br>学生とスポンサーのオンライン交流会を実施 |

### フォーラム <2022年7月11日（火）～14日（金）オンライン>

|       |                              |
|-------|------------------------------|
| フォーラム | 20件、参加登録者数4,446名、延べ聴講者5,910名 |
|-------|------------------------------|

### 秋季大会 <2022年10月12日（水）～14日（金）大阪国際会議場+オンライン>

|             |   |
|-------------|---|
| 学術講演会       | 61セッション、講演数288件（内、英語講演27件）、<br>参加登録者数3,474名 |
| 関西支部企画特別講演、 | 参加登録者数444名                                  |

---

学術講演会運営委員会企（延べ聴講者数 特別講演356名、特別セッション552名）  
画テクニカルレビュー  
第4回学生ポスター  
セッション 現地開催、24件の発表

---

自動車技術展 <2022年5月25日（水）～27日（金）パシフィコ横浜（横浜市）>  
<2022年5月25日（水）～31日（火）ONLINE Stage1>  
<2022年6月29日（水）～7月1日（金）ポートメッセなごや（名古屋市）>  
<2022年6月29日（水）～7月5日（火）ONLINE Stage2>

---

人とくるまの 出展社 484社 / 1,055小間（オンラインのみ 27社）  
テクノロジー展2022 来場登録者 43,665名（オンライン来場登録者 66,028名）  
横浜 / ONLINE Stage1

---

人とくるまの 出展社 165社 / 406小間（オンラインのみ 29社）  
テクノロジー展2022 来場登録者 16,414名（オンライン来場登録者 23,719名）  
名古屋 / ONLINE Stage2

---

“くるまからモビリティへ”の技術展 2022 ONLINE  
<2022年11月21日（月）～25日（金）、延長期間11月26日（土）～12月2日（金）>

---

“くるまから  
モビリティへ”  
の技術展2022 ONLINE 出展社 10社、来場登録者 12,340名

---

シンポジウム

---

委員会企画 シンポジウム8回、講習会1回を開催、計1,265名参加  
シンポジウム・講習会

---

## 6 学術誌及び学術図書の刊行（定款第5条3号、公益目的事業1・2・3）

本年度は、「2050年チャレンジ」を基に制定した編集会議ロードマップの各事業を引き続き実行した。また出版物の編集・出版活動に顕著な貢献があった13名の方に出版・編集功績感謝状を贈呈した。

---

### 資料収集・調査研究に関する学術誌の発行

---

|           |   |
|-----------|---|
| 会誌「自動車技術」 | 主に自動車に関わる技術者、研究者に向けた最新の技術情報を毎月特集。年間12号を発刊<br>1月号「自動車の将来展望」をテーマとした特集<br>8月（「年鑑」）に前年の自動車関連分野の動向及び統計データを掲載<br>・個人会員、賛助会員、定期購読者に電子書籍形式で配信<br>・4月号、図表の拡大機能を導入<br>・5月号、（一社）日本自動車部品工業会と寺師会長との対談動画「自動車部品を語る」を掲載<br>・6月号、若手読者向けの記事として、若手会員と、長く自動車業界を支えた「レジェンド」との「レジェンド対談」動画を掲載<br>・7月号以降、毎号にわたり読者が発刊号の内容を約2分台で把握できる「会誌立ち読み動画」の制作、掲載を開始<br>・8月号「年鑑」の全文を英訳し、英語版ホームページに掲載<br>・9月号「交通死亡事故ゼロへの挑戦」とした特集記事掲載<br>・10月号「未来社会を共創する自動車技術」とした特集記事掲載<br>・11月号「CASEを支える最新カーエレクトロニクス」とした特集記事掲載<br>・12月号「カーボンニュートラルに貢献する内燃機関」とした特集記事掲載<br>・2020年4月から実施している読者アンケートの意見を受け、目次リンク追加。メルマガの内容を変更 |
|-----------|---|

---

|  |  |
|--|--|
| 文献情報収集   | 文献情報検索システム上に、2,377件（～3月末時点）の文献情報を掲載  |
| JSAE エンジンレビュー                                      | 電子版不定期刊行物として発行<br>2022年度は、Vol.12 No.3～Vol.13 No.5として、計11回発行した<br>閲覧ページのHTML化を継続  |
| 日本の自動車規格<br>（2021年日本語版）                            | JIS規格 377件、JASO規格 347件、TP・TR 62件、TRIAS 287件を収録   |
| JASO Standards (English<br>ver.) Viewer            | 英訳されたJASO規格 274件、TP 18件を収録   |
| 高翔   | 関東支部企画・編集により2回発行   |
| 宙舞   | 中部支部企画・編集により2回発行   |
| 関西支部ニュース   | 関西支部企画・編集により2回発行   |
| テストングツール<br>最前線 2022                               | 自動車開発の現場を支える試験・計測・診断・評価・検証ツールなどソリューション情報をまとめた記事をオンラインにて配信<br>会誌に合わせて会員に配信  |
| 次世代自動車技術<br>最前線 2022                               | 次世代自動車に関係する各社の技術や取り組みをまとめた記事をオンラインにて配信<br>会誌に合わせて会員に配信   |
| <b>研究発表に関する学術誌の発行</b>                              |  |
| 自動車技術会論文集  | 年6回発行し、202編をJ-STAGEにて公開  |
| International Journal of<br>Automotive Engineering | 英文の電子ジャーナルとして年4巻発行、26編をJ-STAGEにて公開<br>IJAEの論文投稿サイトを改修<br>DOAJ (Directory of Open Access Journals) への掲載完了<br>ESCI への掲載を検討 |
| 学術講演会予稿集   | 春季大会分 360件を電子媒体にて発行<br>秋季大会分 288件を電子媒体にて発行   |
| Summarized Paper                                   | 2022年春季・秋季大会での発行分をWEB上で公開  |
| フォーラム資料  | 18イベントを電子媒体にて発行、合計74文献を発行  |
| <b>人材育成に関する学術図書の発行</b>                             |  |
| シンポジウム・講習会<br>テキスト                                 | 9イベント分を電子媒体にて発行<br>合計68文献を発行   |
| 九州支部   | 学自研機関誌 (Eternal Car Life 25号) 発行   |
| <b>広報関連他の発行</b>                                    |  |
| プレスリリース  | 21件配信  |
| JSAE メールマガジン                                       | イベント、新着文献等の情報を配信（登録者：約4万6千名）   |
| 北海道支部  | 支部日より1回発行  |
| 関東支部   | メルマガ38件配信  |
| 中部支部   | メルマガ26件配信  |
| 関西支部   | 行事案内10回発行  |

## 7 人材の育成（定款第5条4号、公益目的事業3）

実地開催の再開とともにオンライン開催によるメリットも活かした催事運営を推進した。特に、新たな技術領域の人材育成の取り組みとして自動運転 AI チャレンジは年2回（シミュレーション大会とインテグレーション大会）の開催、また、初級者用のチャレンジコースと上級者用のアドバンスコースに分け、幅広い層の取り込みを図った。また、新技術分野のエンジニア育成として、今年度よりシステ



ムズエンジニアリング育成プログラムを慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 (SDM) と共催した。

| 自動車工学講座                      |  |
|------------------------------|--|
| 基礎講座                         | 第73回：2022年7月25日(月)～8月5日(金) オンライン開催<br>参加者214名  |
|                              | 第74回：(モーターサイクル工学)：2022年9月21日(水)～22日(木)<br>静岡文化芸術大学および9月23日(金)～29日(木) オンライン開催<br>参加者170名  |
|                              | 第75回：(マツダ・ひろしま産業振興機構)：2022年11月28日(月)～12月23日(金) オンライン開催<br>参加者289名  |
|                              | <浜松地域イノベーション推進機構 次世代自動車センター共催><br>2022年度第1回～第4回自動車工学基礎講座：オンライン開催<br>参加者計484名   |
| エシカル・エンジニア<br>開発講座           | 第1回：2022年11月24日(木)、25日(金) オンライン開催<br>参加者19名  |
| CASE 技術基礎講座                  | 第3回：2023年3月13日(月)～17日(金) オンライン開催<br>参加者53名   |
| 自動車サイバーセキュ<br>リティ講座          | 第6回：2022年8月22日(月)～24日(水) オンライン開催<br>参加者79名<br>専門プログラム：Security Operation Center(SOC)の構築と運用のポイント<br>2022年4月22日(金) オンライン開催 参加者14名<br>AES 暗号実装とサイドチャネル攻撃 2022年6月28日(火) オンライン<br>開催 参加者10名 |
|                              | ソフトウェア開発の各段階におけるセキュリティ強化に有効な手段と自動<br>化の方法 2022年10月28日(金) オンライン開催 参加者21名  |
|                              | 脅威抽出演習 2022年11月11日(金) オンライン開催 参加者5名  |
|                              | OTA Update 基礎 2022年12月5日(月)、6日(火) オンライン開催<br>参加者13名  |
|                              | Practical ECU Hacking：①2023年1月13日(金)、②③2023年2月10日<br>(金) オンライン開催 参加者15名  |
|                              | 暗号技術の基礎 2023年2月28日(火) オンライン開催 参加者27名<br>脅威分析演習 2023年3月6日(月) オンライン開催 参加者15名   |
| システムズエンジニ<br>アリング育成プログ<br>ラム | システムズエンジニアリング初級 2022年9月28日(水)～29日(木) オ<br>ンライン開催 参加者110名   |
|                              | 第2回システムズエンジニアリング初級 2023年3月22日(水)～23日<br>(木) オンライン開催 参加者56名   |
|                              | システムズエンジニアリング中級 2023年2月15日(水)～16日(木) オ<br>ンライン開催 参加者54名  |
| 支部の講演会・見学会等                  |  |
| 北海道支部                        | 見学会1回、特別講演会1回(対面+オンラインにて開催)、講演会2回(対<br>面+オンラインにて開催)、e モータースポーツ北海道支部大会 2022 4回、<br>市民講座5回   |
| 東北支部                         | 見学会3回(内現地1回、オンデマンド1回開催、新型コロナウイルスの影<br>響により1回中止)、講演会4回開催(内オンデマンド1回開催) 市民講座9<br>回(内7回は新型コロナウイルスの影響により中止)、各セミナー5回開催   |
| 関東支部                         | 講演会・講習会(オンライン開催を含む)、見学会を合計23回開催、<br>特別見学会(オンライン開催)を1回開催<br>13回目の学生の国際交流活動は、新型コロナウイルスの影響によりタイおよ<br>び台湾 SAE との相互派遣は中止したが、タイの学生が来日し、学術研究講演<br>会に参加。国際交流イベントは、タイから来日した学生が意見交換会と企業          |

|      |   |
|------|---|
|      | 訪問を実施。エコ1 チャレンジカップは、3年ぶりに現地走行を実施し表彰式をハイブリッドで実施  |
| 中部支部 | 講演会3回、研究発表会1回、見学会12回、技術講習会5回、技術交流会2回、技術者懇談会3回、体験型講習会1回、人とくるまのテクノロジー展 2022 NAGOYA、人とくるまのテクノロジー展 2022 ONLINE に出展          |
| 関西支部 | 見学会6回（新型コロナウイルスの影響により内1回中止）、講演会1回、ミニセミナー1回、技術者懇談会1回、技術者交流会1回を開催（開催行事は全てオンラインで開催）  |
| 九州支部 | オンライン講演会2回（TEAMSシステムにて開催）、講演会3回（見学会内開催）、見学会1回、関西支部との合同例会1回、市民講座4回、オンライン技術交流会1回（ZOOMシステムにて開催）技術者交流会1回（新型コロナウイルスの影響により中止） |

### 技術者・研究者の認定制度

|                   |                        |
|-------------------|------------------------|
|                   | JSAE フェローエンジニア 5名      |
| 第17回自動車エンジニアレベル認定 | JSAE プロフェッショナルエンジニア 4名 |
|                   | JSAE シニアエンジニア 105名     |
|                   | JSAE エンジニア 549名を認定     |

### 第20回 学生フォーミュラ日本大会 2022 -ものづくり・デザインコンペティション-

|  |   |
|--|---|
|  | 2022年9月6日（火）～10日（土）にエコパ（小笠山総合運動公園、静岡県掛川市／袋井市）で車検/動的審査/を3年ぶりに現地開催。静的審査は下記の日程でオンライン開催 |
|  | ・デザイン審査：8月23日（火）～26日（金）、デザインファイナルは9月9日（木）に現地開催                                      |
|  | ・プレゼンテーション審査：8月29日（月）～30日（火）  |
|  | ・コストと製造審査：8月31日（水）～9月1日（木）  |
|  | 【参加チーム状況】本年は海外チームのエントリー受け入れは無   |
|  | 最終参加登録チーム：国内69チーム（ICV55・EV14）   |
|  | 本大会参加チーム：国内54チーム（ICV42・EV12）  |
|  | 車検通過：34チーム（車検全種目通過）   |
|  | エンデュランス走行台数：33台（内完走：23台）  |
|  | 総合成績：1位 京都工芸繊維大学、2位 京都大学、3位 日本自動車大学校  |

|         |   |
|---------|---|
| 支部合同試走会 | 8月8日（月）～11日（水）にエコパにて関東・中部・関西合同試走会を開催  |
| 北海道支部   | 学生フォーミュラ車検講習会1回、学生フォーミュラ合同試走会2回（新型コロナウイルスの影響により中止）、学生フォーミュラ日本大会2022 報告会、学生フォーミュラ2022 支部合同試走会・模擬車検会1校参加  |
| 東北支部    | 模擬機械車検会1回、模擬EV車検会1回開催、試走会4回（新型コロナウイルスの影響により中止）、技術講習会1回（新型コロナウイルスの影響により中止）                               |
| 関東支部    | 中部、関西、関東のチームが参加する支部試走会を2回（5月、7月）開催。12月にダンパー講習会とEV試走会、EV技術交流会を開催   |
| 中部支部    | 走行技術トレーニング2回開催  |
| 関西支部    | 試走会2回実施、運営委員会2回、講習会3回実施   |
| 九州支部    | 試走会4回（7月、8月×2、11月）予定していた残り1回は会場都合により中止、模擬車検会1回（7月）、溶接講習会1回（12月）、学生フォーミュラ日本大会2022、リーダーミーティング3回（4月、6月、7月） |

### 自動運転AIチャレンジ2022

|  |  |
|--|--|
|  | インテグレーション大会とシミュレーション大会を開催  |
|  | インテグレーション大会  |
|  | 予選競技：2022年4月12日（火）～5月13日（金）でオンラインシミュレーションにて開催（261チーム、408名のエントリー）               |
|  | 決勝競技：2022年6月26日（日）に東京大学生産技術研究所柏キャンパスで開催。                                       |
|  | ・アドバンストコース総合成績：1位 UCLabAdvanced（名古屋大学大学院）、2位 TeamS（株式会社セック）、3位 NU_AD（名古屋大学大学院） |
|  | ・チャレンジコース総合成績：1位 UCLab（名古屋大学）、2位 Wild challengers（名古屋大学大                       |

|   |
|---|
| 学院)、3位 TLAB (東京大学大学院)<br>シミュレーション大会<br>2022年12月1日(木)～2023年1月31日(火)でオンラインにて開催(190チーム、291名のエントリー)<br>・アドバンストコース総合成績:1位 MizuhoAOKI(名古屋大学大学院)、2位 Re:WildChallengers(名古屋大学大学院)、3位 YutakaJCT(LineFukuoka株式会社)<br>・チャレンジコース総合成績:1位 千葉工業大学上田研自律移動チーム(千葉工業大学)、2位 ms1(非公開)、3位 遊戯王(個人参加) |
|---|

### キッズエンジニア 2022

|  |
|--|
| 2022年7月29日(金)～30日(土)にパシフィコ横浜で3年ぶりの現地開催<br>小学生及びその保護者を対象に教室型プログラム18件、展示型プログラム4件を実施<br>参加者2,720名(児童参加数1,156名)併せてYouTube(録画配信)をオンラインにて開催。(YouTube開設期間:2022年7月20日(水)～8月31日(水)) |
|--|

### 支部の小学生プログラム

|       |  |
|-------|--|
| 北海道支部 | 市民講座1 まちなかキャンパス2022<br>市民講座2 キッズエンジニアin北海道自動車整備大学校2022<br>市民講座3 くるま未来体験教室<br>市民講座4 キッズエンジニア in トヨタ自動車北海道2022<br>市民講座5 キッズエンジニア in 旭川工業高等専門学校2023 |
| 東北支部  | 市民講座企画8「第6回走るペーパーカーの製作及び走行距離競技会(新型コロナウイルスの影響により中止)<br>キッズエンジニア in 東北 2022 仙台(第7回)開催<br>親子マイコンカーラリー体験科学教室1回開催                                     |
| 関東支部  | 小学生くるま未来体験教室2回開催(内1回は、北海道支部主体で開催)。7月のキッズエンジニア2022に出展。市民講座として横浜及び仙台でのキッズエンジニアとモータースポーツジャパンにそれぞれ1回出展   |
| 中部支部  | キッズ・モノづくりワンダーランド9回開催   |
| 関西支部  | キッズエンジニア1回(7月「風船ロケットによる空力実験」、「ミニカーを使ったプログラミング教室」参加者:18名)   |
| 九州支部  | キッズエンジニア in 九州(9月)(台風により中止)  |

### 次世代カーデザイン人材育成プログラム「中高生諸君!モビリティデザインに挑戦!」

|                    |                        |
|--------------------|------------------------|
| 第11回モビリティデザインコンテスト | 応募329作品、6名に各賞を授与、佳作23件 |
|--------------------|------------------------|

### 学生活動企画委員会の活動

|             |  |
|-------------|--|
| 学生ポスターセッション | 第3回:2022年5月25日(水)～27日(金)現地(パシフィコ横浜)およびオンラインで開催。39件の発表。2022年5月31日(火)学生とスポンサーのオンライン交流会も実施した。スポンサー9社<br>第4回:2022年10月12日(水)～14日(金)現地(グランキューブ大阪)開催。24件の発表 |
|-------------|--|

### 学生安全技術デザインコンペティション

|   |
|---|
| 2023年4月の国際大会(横浜)に向け、2023年2月1日(水)国内大会開催。7チームがエントリーし、一次審査を踏まえ3チームが国内大会参加。2チームが国際大会決勝出場予定<br>国際大会出場チーム:日本大学、東京海洋大学 |
|---|

### 学生自動車研究会(学自研)の活動

|       |   |
|-------|---|
| 北海道支部 | 各校独自イベント企業見学会5回、eモータースポーツ北海道支部大会2022<br>4回、第30回雪氷路セーフティドライビングコンテスト1回(開催中止)  |
| 東北支部  | 支部学自研大会1回、運営委員会3回、学自研参与会2回、学自研講演会1回、第41回タイヤ研修会1回、第32回自動車技術独創アイデアコンテスト1回を全てオンライン開催、企業見学会1回、第37回自動車整備コンテスト1回、第33回手作り自動車省燃費競技大会1回を開催 |
| 関東支部  | 学自研大会1回、参与会1回(メール会議)、支部学生委員会12回、講習会・  |

|      |  |
|------|--|
|      | 研修会を3回開催、学術研究講演会1回（ハイブリッド開催）   |
| 中部支部 | 参加会3回、学生委員会5回、学生委員会引継会1回、安全講習会2回、ものづくりセミナー1回、中部交流会2回、e モータースポーツ大会6回、基礎技術交流会1回、中部地区交流会1回、スーパーフォーミュラテスト&本線見学1回、車両開発マネジメント1回、スズキエンジン講習会1回、カート耐久レース1回、スーパー耐久開発テスト見学&ミュージアム見学1回、学術講演会1回開催 |
| 関西支部 | 参加会1回、運営委員会4回、講演会4回、見学会3回、工場見学会2回、卒業研究発表会1回、キッズエンジニア1回を開催  |
| 九州支部 | 九州支部学自研総会研究発表会（総会、研究発表会、学生フォーミュラ大会報告会）（10月）、安全運転講習会1回（8月）、学生向け工場見学会、特別講演会（新型コロナウイルスの影響により中止）開催。学自研機関誌1回発行  |

## 8 規格の作成及び普及（定款第5条5号、公益目的事業1）

規格会議では、国内標準化審議団体として、自動車分野〔自動車標準化委員会（ISO/TC22）、JIS/JASO規格審議委員会〕及び ITS 分野〔ITS 標準化委員会（ISO/TC204）〕における標準化活動を推進した。2022年度も新型コロナウイルスの収束が見通せない中、7月以降は ISO 会議のハイブリッド開催解禁に伴い、対面会議への専門家派遣を再開し、計画通り進捗した。

自動車標準化委員会では、ISO/TC22傘下 SC/WG 会議に専門家を派遣し、日本発となる7件の国際規格の発行に貢献した。また、ISO/TC22総会を20年ぶりに日本で開催（ハイブリッド形式）し、成功裏に終了した。さらに、今後5カ年の活動計画について、最新状況を踏まえた内容に改訂し、2023年度の活動に向けた「自動車標準化5カ年計画 2023」を策定した。

JIS/JASO 規格審議委員会では、JIS 制定案1件/改正案1件、JASO 制定案1件/改正案4件、テクニカルペーパー4件を審議し、規格会議で承認した。また、JASO テクニカルペーパー TP 22001「半導体素子の製品/工程変更に伴う顧客への通知ガイドライン」に附属書利用に関する講習会を実施した。

自動車分野の標準化活動に貢献いただいた7名の専門家に、功労者感謝状を贈呈した。

ITS 標準化委員会では、ISO/TC204総会、各 WG 会議及びアドバイザーグループ等に専門家が参加し、日本発となる5件の国際規格発行に貢献した。また、JASO 規格案1件を審議し、規格会議で承認した。さらに、今後5年間の活動計画となる「ITS 分野の国際標準化戦略 5カ年計画 2023」を発行するとともに、関連省庁や産業界等における情報共有と国際標準化普及促進を目的とした ITS 国際標準化フォーラムを開催した。

ITS 分野の標準化活動に貢献いただいた7名の専門家に、功労者感謝状を贈呈した。

自動運転に関する活動では、自動運転標準化検討会において、国内の TC22、TC204領域の連携活動を推進し、自動運転・スマートモビリティ関連の国家プロジェクト動向を整理し最新の標準化状況を踏まえた「自動運転関連技術及びスマートモビリティ関連技術に関する国際標準化 戦略企画書（2023）」を発行した。

日本自動車工業会及び JASIC（自動運転標準化研究所）等の自動車関連団体において基準・標準連携活動を推進した。

経済産業省 産業標準化事業表彰において、これまでの国際標準化活動の功績が認められ、産業技術

環境局長表彰を3名が受賞した。

### 自動車標準化委員会、JIS/JASO 規格審議委員会（自動車分野）

|      |   |
|------|---|
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ TC22/SC/WG 会議</li> <li>会議出席： 208会議606名（オンライン出席491名、面着出席115名）</li> <li>・ 2件の新規作業項目提案</li> <li>－二輪車－蒸発ガスの測定方法 第3部：VT-SHED 試験手順</li> <li>－乗用車－踏み間違い時加速抑制装置試験法(ACPE)</li> <li>・ 59件の国際規格案（DIS）回答</li> <li>・ 7件の日本提案・主導による国際標準規格等発行</li> <li>－自動運転システムテストシナリオ－シナリオベースの安全性評価試験フレームワーク</li> <li>－ソフトウェアアップデートエンジニアリング</li> <li>－100Mbit/s イーサネット通信性能規格</li> <li>－電気推進型モペット及びオートバイ－安全仕様－第1部：車載充電式エネルギー貯蔵システム（RESS）</li> <li>－電気推進型モペット及びオートバイ－安全仕様－第2部：車両の操作上の安全性</li> <li>－電気推進型モペット及びオートバイ－安全仕様－第3部：電気安全</li> <li>－電気推進型モペット及びオートバイ－外部電源への導電接続に関する安全要求事項</li> <li>・ 第20回 ISO 研修会 基礎編（8月2日） 参加者 254名<br/>内容：ISO の基礎知識</li> <li>・ 第21回 ISO 研修会 実践編（12月20日） 参加者 98名<br/>内容：ISO エキスパート2名による講演</li> </ul> |
| ISO  |   |
| JIS  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制定原案1件、改正原案1件、廃止4件</li> <li>・ JIS・JASO 原案作成講習会(6月8日、10日) 参加者17名（7委員会）</li> </ul>   |
| JASO | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制定1件、改正4件、小改正5件、廃止25件、テクニカルペーパー制定4件</li> </ul>   |
| 委員会  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パンフレット「自動車の標準化2022」を発行</li> <li>・ 5カ年計画制定・メンテナンスWGを設置し「自動車標準化5カ年計画2023」を策定</li> <li>・ 自動運転標準化検討会：「自動運転関連技術及びスマートモビリティ関連技術に関する国際標準化戦略企画書（2023）」を発行</li> <li>・ 12部会、62分科会を設置、構成委員数1754名、開催数343回</li> </ul>   |
| 受託事業 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 省エネルギーに関する国際標準の獲得・普及促進事業（自動運転システムを支える安全技術に関する国際標準化・普及基盤構築）委託元：野村総合研究所</li> <li>・ 戦略的国際標準化加速事業（救急自動通報システムに関する国際標準化）委託元：三菱総合研究所</li> <li>・ 戦略的国際標準化加速事業（自動車内装部材のフォギングに関する国際標準化）委託元：三菱総合研究所</li> <li>・ 2022年度標準化事業 委託元：日本自動車工業会</li> </ul>  |
| 表彰   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標準化活動功労者感謝状贈呈 7名</li> <li>・ 産業標準化事業表彰：産業技術環境局長表彰 3名</li> </ul>   |

### ITS 標準化委員会（高度道路交通システム分野）

|     |  |
|-----|--|
| ISO | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ TC204 及び関連国際会議</li> <li>会議出席： 27会議 161名（オンライン出席 143名、面着出席 18名）</li> </ul> |
|-----|--|

|   |   |
|---|---|
|   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・4件の新規作業項目提案</li> <li>－商用貨物車テレマティクスアプリケーション 第26部：電気自動車走行中充電モニタリング</li> <li>－ペダル踏み間違い時加速抑制装置</li> <li>－自動運転制御や運転支援システムからユーザへの情報伝達インターフェース仕様</li> <li>－AP-DATEXにおけるセンタ路側機間データインターフェース 第2部：共通管理</li> <li>・19件の国際規格案（DIS）回答</li> <li>・5件の日本提案・主導による国際標準規格等発行</li> <li>－モビリティ・インテグレーションーデジタルインフラの役割機能モデル</li> <li>－位置参照手法 第1部：一般要件とコンセプトモデル</li> <li>－トラック隊列走行システム</li> <li>－TICS センター間通信 第2部：DATEX-ASNによる通信の規定</li> <li>－衝突回避ラテラル制御システム</li> </ul> |
| 委員会   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレット「ITSの標準化2022」を発行</li> <li>・「ITS分野の国際標準化戦略5か年計画2023」を策定</li> <li>・ITS標準化委員会、技術委員会、ITS国際標準化戦略タスクフォース、WG14分科会関連、その他の国内会議を62回開催、構成委員数301名</li> <li>・ITS国際標準化フォーラム（会場27名、オンライン183名）</li> </ul>   |
| 受託事業  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネルギー等に関する国際標準の獲得・普及促進事業委託費（省エネルギー等国際標準開発（国際標準分野））（スマートモビリティシステムの高度化に関する国際標準化）委託元：野村総合研究所</li> </ul>   |
| 表彰  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・標準化活動功労者感謝状贈呈 7名</li> </ul>   |
| <p>JIS: Japanese Industrial Standards<br/> JASO: Japanese Automobile Standards Organization<br/> TC: Technical Committee<br/> SC: Sub-Committee<br/> WG: Working Group<br/> DIS: Draft International Standard</p> |   |

## 9 内外の関連機関、団体等との提携及び交流

(定款第5条6号、公益目的事業1・2・3)

国内では日本学術会議や関係府省庁、日本工学会等関連団体との連携に努め、海外ではFISITAの活性化に協力すると共に、欧米・アジア地域の各国自動車技術会をはじめとする諸機関、団体との交流を推進した。

|        |   |
|--------|---|
| 日本学術会議 | <p>協力学術研究団体として連携を図った。安全工学シンポジウム2022（2022年6～7月）を共催</p>   |
| 経済産業省  | <p>省エネルギーに関する国際標準の獲得・普及促進事業（省エネルギー等国際標準開発（国際標準分野））：①スマートモビリティシステムの高度化に関する国際標準化・普及基盤構築 ②自動運転／高度運転支援システムに関する国際標準化・普及基盤構築</p> <p>戦略的国際標準化加速事業：①救急自動通報システムに関する国際標準化 ②自動車内装部材のフォギングに関する国際標準化</p> <p>第4回・5回自動運転AIチャレンジの開催（2022年6月、2022年12月～2023年1月）で連携（後援）</p> <p>第四次産業革命スキル習得講座認定制度における「自動運転分野」に関わる審査機関として協力</p> |
| 国土交通省  | <p>第27回ESV国際会議（神奈川：2023年4月）における第9回学生安全技術デザインコンペティションに向けて日本代表チームを選考する国内大会を開催</p> <p>自動運転標準化研究所（事務局：自動車基準認証国際化研究センター）における国際標準化活動と国際標準化活動の連携</p>   |

|                          |  |
|--------------------------|--|
| 環境省                      | 車外騒音部門委員会が今後の車外騒音規制のあり方に関する国際動向調査（受託事業）を実施   |
| 新エネルギー・産業技術総合開発機構        | 運輸部門省エネルギー技術開発テーマに関する調査のWGに持続可能な自動車社会検討部門委員会が参画し活動を推進  |
| 情報通信技術委員会(TTC)           | 通信セキュリティの標準化で連携  |
| 日本工学会                    | 理事会・事務研究委員会へ委員を派遣し、工学系学術団体との連携を推進  |
| 日本機械学会                   | 日本機械学会が幹事となり、第33回内燃機関シンポジウム（東京：2022年11月）を共催  |
| 日本規格協会                   | 自動車工学基礎講座・標準化講座への講師を依頼<br>JIS、JASO 原案作成講習会への講師及び JASO 原案レビューを依頼  |
| 日本自動車工業会                 | 海外における PM 研究動向の最新研究調査（受託事業）を実施<br>安全・環境標準化部会、自動運転部会、コネクテッド部会との連携活動<br>第4回・5回自動運転 AI チャレンジの開催（2022年6月、2022年12月～2023年1月）で連携（後援）      |
| 日本自動車研究所                 | ISO/TC22（自動車）、TC204（ITS）における国際標準化連携活動  |
| 自動車基準認証国際化研究センター（JASIC）  | 自動運転基準化研究所において、自動運転技術に関する基準（国連法規）、標準（国際規格）連携活動を推進  |
| 日本金属学会                   | 材料部門委員会の活動で連携  |
| 日本鉄鋼協会                   | 材料部門委員会と共同設置している自動車用材料共同調査研究会の活動を推進  |
| 計測自動制御学会                 | 自動車制御とモデル研究部門委員会の活動で連携   |
| 新構造材料技術研究組合              | 構造形成技術部門委員会の活動で連携<br>フォーラム（2022年7月）にて2セッション実施  |
| FISITA                   | FISITA 執行役員会並びに理事会の副会長・理事の要職に本会役員などが就き、FISITA 組織・活動に参画   |
| APAC                     | APAC-21メルボルン大会（2022年10月）に協力  |
| JASPAR                   | ソフトウェア関連の標準化で連携  |
| SAE International        |  |
| 国際会議                     | 国際会議共催の協力覚書のもと SETC2022（兵庫/JSAE 主担当/2022年10～11月）を開催、2023 P,E&L（京都/JSAE 主担当/2023年8～9月）に向けて準備活動を推進                                   |
| 英国機械技術者協会（I Mech E）      | MOU に基づき友好的協力関係構築の活動を継続  |
| 中国汽車工程学会（China SAE）      |  |
| 韓国自動車工学会（Korean SAE）     | 国際会議等で連携   |
| タイ自動車技術会（SAE Thailand）   |  |
| アジアなど海外に係わる活動            |  |
| 英文電子ジャーナル                | 国内外からの英語投稿論文を J-Stage 上で公開する電子ジャーナル「International Journal of Automotive Engineering」を定期配信  |
| “くるまからモビリティへ”の技術展 ONLINE | 従来の自動車業界の枠組みにとらわれず、将来のモビリティに必要な技術・人材を取り込む活動として「“くるまからモビリティへ”の技術展 ONLINE」を開催（2022年11月）し、人工知能学会・電気学会・電子情報通信学会、土木学会、日本 LCA 学会と講演企画で協力 |
| 講座に係る活動                  |  |
| 自動車サイバーセキュリティ講座          | 日本自動車工業会、JASPAR、J-Auto-ISAC、情報通信研究機構からの講師協力をはじめ、経済産業省、国土交通省、情報処理推進機構、車載組込みシステムフォーラムと連携して開催   |
| システムズエンジニアリング講座          | 初級（2022年9月、2023年3月）、中級（2023年2月）の開催にあたり慶應義塾大学大学院 SDM 研究科と共催   |

ESV: International Technical Conference on the Enhanced Safety of Vehicles  
 FISITA: International Federation of Automotive Engineering Societies  
 APAC: Asia Pacific Automotive Engineering Conference  
 SETC: Small Powertrains and Energy Systems Technology Conference  
 P,E&L: Powertrains, Energy and Lubricants International Meeting

## 10 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条7号、公益目的事業2・3）

自動車工学及び自動車技術の向上発展に多大な功績のあった技術者・研究者に対し、自動車技術会賞をはじめとして、以下の賞を授与した。

### 技術者・研究者対象の研究業績等の表彰

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 第72回自動車技術会賞           | 学術貢献賞0件、技術貢献賞1件、浅原賞学術奨励賞4件、浅原賞技術功労賞2件、論文賞9件、技術開発賞8件を授与                           |
| 技術教育賞                 | 1件に授与  |
| 技術部門貢献賞               | 54件に授与   |
| 自動車技術会フェロー            | 18名に称号を授与  |
| 標準化活動功労感謝状            | 標準化活動に顕著な貢献があった7名に感謝状を贈呈   |
| ITS 標準化活動功労感謝状        | ITS 標準化活動に顕著な貢献があった7名に感謝状を贈呈   |
| 編集・出版功績感謝状            | 編集委員会委員としての活動に多大な功績があった方、編集会議に係わる著作物の出版に多大な功績があった方に感謝状を贈呈<br>編集功績感謝状7名、出版功績感謝状6名 |
| 学術講演会<br>優秀講演発表賞      | 春季大会講演から7件、秋季大会講演から7件に授与   |
| 学術講演会運営功績<br>感謝状      | 学術講演会の運営に顕著な貢献があった2名に感謝状を贈呈  |
| キッズエンジニア運営功<br>績感謝状   | キッズエンジニアの活動に対して顕著な貢献があった3名に感謝状を贈呈  |
| 学生フォーミュラ大会<br>運営功績感謝状 | 学生フォーミュラ大会の活動に対して顕著な貢献があった14名に感謝状を贈呈   |
| <b>学生対象の業績表彰</b>      |  |
| 大学院研究奨励賞              | 176名の大学院生に授与   |
| 学自研功労賞                | 12名の学生に授与  |
| 学生ポスターセッション<br>賞      | 第3回（2022年春季大会）6名に授与（最優秀賞1名、優秀賞5名）<br>第4回（2022年秋季大会）3名に授与（優秀賞3名）                  |

## 11 その他この法人の目的を達成するために必要な事業（定款第5条8号）

### 公益社団法人対応業務

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 内閣府への事業報告<br>・決算書の提出  | 定時総会終了後、事業報告・決算書の提出を内閣府に対して行った<br>(電子申請) |
| 寄附金                   | 5名の方から総額11万4千円の寄附金をいただいた                 |
| <b>代議員会・委員会・だいじん会</b> |  |
| 代議員会                  | 第1回代議員会（2023年1月27日）                      |



|        |  |
|--------|--|
| 運営企画会議 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年春季大会 各催事の開催報告</li> <li>・2022年秋季大会 各催事の開催報告</li> <li>・規則、処理基準の改定について確認、承認</li> <li>・入会促進キャンペーンについて確認、承認</li> <li>・会員情報プラットフォームについて進捗報告</li> <li>・2023年春季大会 Keynote Address の企画を検討</li> </ul> |
| 総務委員会  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手技術者交流会の企画、実施（2023年2月20日）参加者60名</li> </ul>  |
| 広報委員会  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレスリリースを21件配信</li> <li>・学生フォーミュラシミュレータを人とくるまのテクノロジー展、キッズエンジニア、エコワン、モータースポーツジャパン、東北キッズにて展示</li> </ul>   |
| だいじん会  | 2022年11月18日（金）にアルカディア市ヶ谷で開催し、名誉会員14名が参加  |

## 規則制定・改定

|    |  |
|----|--|
| 改定 | <ul style="list-style-type: none"> <li>第2回理事会決議：共同研究センター組織名称に伴う規則改定</li> <li>第4回理事会決議：会員規則改定</li> <li>第4回理事会決議：個人情報保護規則改定</li> <li>第4回理事会決議：育児・介護休業等に関する規則改定</li> <li>第4回理事会決議：表彰関係の規則改定</li> <li>第4回理事会決議：学生ポスターセッション賞規則制定</li> </ul> |
|----|--|

## 会員増強

|       |  |
|-------|--|
| 北海道支部 | 支部活動をPRするために各団体、企業に協力を要請。各校独自イベントの企業見学会を開催し、学生会員の入会を促進。e モータースポーツ北海道支部大会等、新しいスタイルを実施中  |
| 関東支部  | 本部入会キャンペーンと連動した入会キャンペーン利用者限定行事を実施。   |
| 中部支部  | 支部事業紹介動画を作成し、各イベントで案内。愛知県主催展示会にて自動車技術会紹介ブースを出展   |
| 関西支部  | 2023年度末までの会員目標を設定し、3回の会員・魅力拡大委員会を開催し、担当理事を介して各機関へ入会促進の協力を要請するとともに、コロナ禍での会員魅力拡大に向け、オンラインミニセミナーやオンライン技術者懇談会等、with CORONA 環境下での行事スタイルを実施中 |
| 九州支部  | 会の魅力向上と会員へのサービスの充実を図るため、技術交流会を開催   |

## ウェブサイトを活用した会員サービス

|            |  |
|------------|--|
| 新規システム構築   | 新ウェブサイト用 CMS、会誌 HTML 作成システム、日英中多言語辞書システム、決済システム  |
| システム・データ更新 | 文献・情報検索システム、学生フォーミュラ支援システム、Paper Entry System、JASO Standards Viewer、マイナンバーシステム、中部支部イベント受付システム、決裁承認システム、アンケートシステム（クエスタント）、本部ウェブサイト、支部ウェブサイト、委員情報システム、書誌情報の電子化、Acrobat の入れ替え |

## 支部総会・役員会

|       |  |
|-------|--|
| 北海道支部 | 支部総会1回（ハイブリッド開催）、支部理事会2回（ハイブリッド開催）   |
| 東北支部  | 支部総会1回、支部理事会3回開催   |
| 関東支部  | 支部総会1回（オンライン開催）、理事会3回（オンライン会議、内、顧問同席2回）、顧問会1回（書面審議）、事業担当理事会33回開催（ハイブリッド開催、オンライン開催） |
| 中部支部  | 支部総会1回、理事会2回、担当理事会2回、常任幹事会4回、担当幹事会4回、さんぼう会2回、支部長引継ぎ会1回、各事業別企画委員会187回開催             |
| 関西支部  | 支部総会1回、理事会2回、各事業別企画委員会4回と編集委員会4回を開催  |
| 九州支部  | 支部総会1回（ハイブリット開催）、理事会2回（ハイブリット開催）、常任理事会4回（ハイブリット開催）                                 |

## 参考：事業区分の説明

### 公益目的事業 1 資料収集事業・調査研究事業

専門家による研究・調査に関する委員会活動並びに規格・標準化の推進及び普及活動を通して、自動車に係わる技術情報を調査・収集・選定・提供することにより、自動車の環境性能、安全性能及び利便性の向上に寄与する事業

- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術、抄録誌、諸元表等）
- ・ 調査及び研究（定款 5-1）
- ・ 規格の作成及び普及（定款 5-5）

### 公益目的事業 2 研究発表事業・表彰事業

国内外の技術者及び研究者に対して研究成果発表の機会を提供し、技術情報及び技術者・研究者間の交流を促進することにより、技術及び研究レベルの向上を図り、自動車技術の発展に寄与する事業

- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：春季大会、秋季大会）
- ・ 内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款 5-6：FISITA、APAC、SAE-Intl. 等）
- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術会論文集、IJAЕ 誌、予稿集等）

### 公益目的事業 3 人材育成事業・表彰事業

児童、学生及び技術者の各層に対応した教育プログラムを提供すると共に、教材の開発、優秀技術者の表彰及び資格付与を行うことにより、人材の育成を図る事業

- ・ 人材の育成（定款 5-4）
- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：シンポジウム等）
- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：ハンドブック、用語辞典、教育図書等）
- ・ 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款 5-7）
- ・ 支部活動（定款 5-8：講習会、見学会等）

### 収益事業 展示会事業

自動車に係わる技術者及び研究者を対象として、最新技術に関する製品展示及び技術発表を行い、技術及び研究レベルの向上に寄与するとともに、利益を公益目的事業の実施に資する事業

- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：展示会）

### その他事業 会員事業等

各地域での会員間の交流を促進し、事業活動の活性化を図ることにより、自動車技術会の活動基盤の強化に寄与する事業